

申命記 11回

「律法の目的」

申4:1~8

1. はじめに

(1) イスラエルの民は、正しい世界観と人生観を持つ必要があった。

(2) 申命記のアウトライン (宗主権契約の形式)

- ①第1の説教：歴史の回顧 (1:5~4:43)
- ②第2の説教：契約に基づく義務 (4:44~26:19)
- ③第3の説教：祝福と呪いの宣言 (27:1~29:1)
- ④第4の説教：契約条項のまとめ (29:2~30:20)

(3) 3章の内容 (カナンの地征服の前に行うべきこと)

- ①征服した土地の分割
- ②2部族半への命令
- ③ヨシュアへの権限委譲

(4) 4章のアウトライン

- ①律法の目的 (4:1~8)
- ②ホレブでの体験の目的 (4:9~14)
- ③偶像礼拝の禁止 (4:15~24)
- ④離散の預言 (4:25~31)

2. メッセージのアウトライン

- (1) 豊かな生活を与えるため (1~4節)
- (2) 諸国の民の光とならせるため (5~8節)

3. 結論

- (1) 律法に手を加える者
- (2) イスラエルの民の特徴

律法の目的について学ぶ

I. 豊かな生活を与えるため (1~4節)

1. 1節

Deu 4:1 今、イスラエルよ、私が教える掟と定めを聞き、それらを行いなさい。それはあなたがたが生き、あなたがたの父祖の神、【主】があなたがたに与えようとしておられる地に入り、それを所有するためである。

(1) 「今、イスラエルよ」

- ①モーセは、出エジプト以来の歴史を回顧して来た(申1~3章)。
- ②40年の放浪期間も【主】の守りと恵みは尽きることがなかった。
- ③その事実に基づいて、今後いかに生きるべきかを民に語っている。
- ④申命記のテーマは、「【主】の愛に対する応答」である。
*それゆえ、極めて現代的な書である。

⑤詩103:2

Psa 103:2 わがたましいよ 【主】をほめたたえよ。／主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな。

(2) 「私が教える掟と定め」

- ①「掟」(ホック)と「定め」(ミシュパット)は、どう違うのか。
- ②ジョン・ウェスレイの解説
*「掟」とは、礼拝や神への奉仕に関する律法である。
*「定め」とは、隣人への義務に関する律法である。
*この2つは、十戒の2枚の石版に対応している。
- ③掟+定め=律法の全体

(3) 【主】の律法に忠実であることが、約束の地での豊かな生活を保証する。

- ①私たちの場合は、「キリストの律法」への従順が命じられている。
- ②1コリ9:21、ガラ6:2

2. 2節

Deu 4:2 私があなたがたに命じることばにつけ加えてはならない。また減らしてはならない。私があなたがたに命じる、あなたがたの神、【主】の命令を守らなければならない。

(1) 【主】の律法は、絶対的なものである。

- ①これに何かを付け加えたり、何かを差し引いたりしてはならない。
*何かを付け加えると、律法は重荷となる。
*何かを差し引くと、律法は不完全なものとなる。
- ②律法が命じていることを実行するだけでよい。

(2) 律法は、それを守る人を生かす。

- ①申8:3

Deu 8:3 それで主はあなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの父祖たちも知らなかったマナを食べさせてくださった。それは、人はパンだけで生きるのではなく、人は【主】の御口から出るすべてのことばで生きるということ、あなたに分からせるためであった。

*マナは神のことばによって、イスラエルの民に与えられた。

*マナの背後には、大いなる霊的教訓がある。

*マナを食べることは、神のことばを食べることである。

②マタ4:4は、申8:3の引用である。

Mat 4:4 イエスは答えられた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる』と書いてある。」

*神のことばの裏打ちがないパンは、人を生かさない。

*神の御心は、イエスが荒野で空腹になることであった。

*御心に叶ったパンを食べる人は幸いである。

(3) しかし、イスラエルの民は、律法を守ることができなかった。

①律法によっては、誰一人義とされる者はいない。

②律法に問題があるのではなく、人間の罪が問題である。

3. 3～4節

Deu 4:3 あなたがたは、【主】がバアル・ペオルのことでなされたことを自分の目を見た。バアル・ペオルに従った者すべてを、あなたの神、【主】はあなたのうちから根絶やしにされたのである。

Deu 4:4 しかし、あなたがたの神、【主】にすがってきたあなたがたはみな、今日生きている。

(1) 律法違反の悲劇を教えるために、バアル・ペオル事件を例に取る。

①この出来事は、民25:1～9に記されている。

②これは、イスラエルの歴史の中の汚点のひとつである。

③民25:1～3

Num 25:1 イスラエルはシティムにとどまっていたが、民はモアブの娘たちと淫らなことをし始めた。

Num 25:2 その娘たちが、自分たちの神々のいけにえの食事に民を招くと、民は食し、娘たちの神々を拝んだ。

Num 25:3 こうしてイスラエルはバアル・ペオルとくびきをともにした。すると、【主】の怒りがイスラエルに対して燃え上がった。

(2) 事件の内容

- ①この事件は、モアブの野で起こった。
- ②バアル・ペオルは、豊穡の偶像神である。
- ③民はモアブ人の女に誘惑され、霊的にも肉体的にも姦淫を犯した。
- ④その結果、2万4,000人が死んだ。
- ⑤しかし、【主】に付き従った者は、全員が生きた。

(3) この事件は、民族の記憶として残った。

①詩 106 : 28~29

Psa 106:28 彼らはまた バアル・ペオルとくびきをともにし／死者へのいけにえを食べた。

Psa 106:29 こうして 自らの行いによって御怒りを引き起こし／彼らに主の罰が下った。

②ホセ 9 : 10

Hos 9:10 「わたしはイスラエルを、／荒野のぶどうのように見出し、／あなたがたの先祖を、／いちじくの木の新なりの実のように見ていた。／バアル・ペオルにやって来たとき、／彼らは恥ずべきものに身を委ね、／自分たちが愛しているものと同じように、／彼ら自身も忌まわしいものとなった。

II. 諸国の民の光とならせるため (5~8 節)

1. 5~6 節

Deu 4:5 見なさい。私は、私の神、【主】が私に命じられたとおりに掟と定めをあなたがたに教えた。あなたがたが入って行き、所有しようとしているその地の真ん中で、そのとおりに行うためである。

Deu 4:6 これを守り行いなさい。そうすれば、それは諸国の民にあなたがたの知恵と悟りを示すことになり、彼らはこれらすべての掟を聞いて、「この偉大な国民は確かに知恵と悟りのある民だ」と言うであろう。

(1) 律法を持った民は、道徳的・倫理的に、ユニークな民となる。

- ①【主】への感謝が、従順に生きることの動機である。
- ②従順に生きるなら、諸国民を【主】に導くことができるようになる。

(2) 【主】の律法に従って生きるなら、諸国の民は、こう考えるようになる。

- ①イスラエルは、知恵と悟りを持った偉大な国民である。
- ②イスラエルは、【主】なる神がそばにいて守っておられる偉大な国民である。
- ③イスラエルは、正しいおきてと定めとを持っている偉大な国民である。

- (3) クリスマンは、どのような民として知られているだろうか。
- ①イスラエルの民は、諸国の民を【主】に導くために選ばれた。
 - ②私たちは、神の愛を伝えるために先に救われた。

2. 7～8節

Deu 4:7 まことに、私たちの神、【主】は私たちが呼び求めるとき、いつも近くにおられる。このような神を持つ偉大な国民がどこにあるだろうか。

Deu 4:8 また、今日私があなたがたの前に与えようとしている、このみおしえのすべてのように正しい掟と定めを持つ偉大な国民が、いったいどこにあるだろうか。

- (1) 呼び求めるなら、神はいつも近くにおられる。
- ①このような神を持つ偉大な国民は、ほかにはいない。
- (2) 【主】が与える教えのすべては、正しい掟と定めである。
- ①このような掟と定めを持つ偉大な国民は、ほかにはいない。

結論

1. 律法に手を加える者

- (1) 後になって、パリサイ人たちは口伝律法を追加した。
- ①これは、律法の編集をしていることである。
 - ②やがて彼らは、口伝律法をモーセの律法よりも重視するようになった。
 - ③まさに、モーセが禁止したことを行なったのである。
 - ④律法に手を加えることは、自分を神以上の位置に置くことである。
- (2) クリスマンも、この過ちと無関係ではない。
- ①「聖書のみ」の信仰を告白し、それを実践しようではないか。

2. イスラエルの民の特徴

- (1) イスラエルの民が持っていなかったもの
- ①天然資源、②富、③軍事力
- (2) イスラエルの民が持っていたもの
- ①神との近い関係
 - ②神の律法
 - ③律法に従うことから生まれる道徳的・倫理的資質
- (3) 【主】に従うなら、諸国民の羨望の的となる。
- (4) クリスマンの評価はどうか。
- ①知恵と知識に富んでいると言われるか。

②神がともにおられると言われるか。

③正しい基準と法を持っていると言われるか。

(5) この世の富があっても、物乞いのように生きている人がいる。

(ILL) 5つの建物を所有し、300万エジプトポンド(約2000万円)を所有する57歳のエジプト人女性の物乞いが逮捕された。

(6) 慎ましくても、王子や王女のように生活している人もいる。

①箴30:8~9

Pro 30:8 むなしいことと偽りのことばを、／私から遠ざけてください。／貧しさも富も私に与えず、／ただ、私に定められた分の食物で、／私を養ってください。

Pro 30:9 私が満腹してあなたを否み、／「【主】とはだれだ」と言わないように。／また、私が貧しくなって盗みをし、／私の神の御名を汚すことのないように。

②ヨハ15:7~8

Joh 15:7 あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら、何でも欲しいものを求めなさい。そうすれば、それはかなえられます。

Joh 15:8 あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになります。

申命記 12回
「ホレブでの体験の目的」
申4:9~14

1. はじめに

(1) 申命記のアウトライン (宗主権契約の形式)

- ①第1の説教：歴史の回顧 (1:5~4:43)
- ②第2の説教：契約に基づく義務 (4:44~26:19)
- ③第3の説教：祝福と呪いの宣言 (27:1~29:1)
- ④第4の説教：契約条項のまとめ (29:2~30:20)

(2) イスラエルの民は、これからカナンの地に入ろうとしている。

- ①彼らは、正しい世界観と人生観を持つ必要があった。

(3) 3章で、カナンの地征服の準備が始まった。

- ①征服した土地の分割
- ②2部族半への命令
- ③ヨシュアへの権限委譲

(4) 4章のアウトライン

- ①律法の目的 (4:1~8)
- ②ホレブでの体験の目的 (4:9~14)
- ③偶像礼拝の禁止 (4:15~24)
- ④離散の預言 (4:25~31)
- ⑤【主】だけが神 (4:32~40)
- ⑥逃れの町 (4:41~43)

2. メッセージのアウトライン

- (1) 偶像礼拝への2つの道 (4:9~10)
- (2) シャカイナグローリー (4:11~12)
- (3) シナイ契約 (4:13~14)

3. 結論

- (1) 親の責務
- (2) 【主】への恐れ

ホレブでの体験について学ぶ

I. 偶像礼拝への2つの道(4:9~10)

1. 9節

Deu 4:9 ただ、あなたはよく気をつけ、十分に用心し、あなたが自分の目で見たことを忘れず、一生の間それらがあなたの心から離れることのないようにしなさい。そしてそれらを、あなたの子どもや孫たちに知らせなさい。

(1) 「ただ、あなたはよく気をつけ、十分に用心し」

- ①イスラエルの民は、偶像礼拝に陥る可能性を常に持っていた。
- ②偶像礼拝の罪は、亡国の罪である。
- ③なぜなら、イスラエルの民は【主】によって造られた民である。
- ④【主】から離れるなら、存在の根拠と目的を失うことになる。
*次回取り上げる申4:15~24は、偶像礼拝に対する警告である。
- ⑤私たちも、偶像礼拝に陥らないように、常に自分の心を見張る必要がある。

*箴16:17

Pro 16:17 直ぐな人の大路は悪から遠ざかっている。／自分のたましいを守る者は自分の道を見張る。

(2) 偶像礼拝に陥る道は、2つある。

- ①ひとつは、【主】の御業を忘れることである。
*墮落した魂は、【主】の御業をすぐに忘れてしまう。
*ここでの【主】の御業とは、ホレブでの体験である。
*「あなたが自分の目で見たこと」は、出19章に記されている。
*私たちも、神の御業を常に意識していないと、忘却の民となる。
*1日に一度聖書を読み祈ることは、最低限すべきことである。
- ②もうひとつは、子どもたちに【主】の御業を教えないことである。
*【主】の御業を知らない世代が出現すると、彼らは偶像礼拝に陥る。
*私たちも、信仰の継承の重要性を認識すべきである。

(3) 律法を忘れないための最善の方法は、ホレブでの体験を思い出すことである。

- ①ホレブでの体験とは、律法を与えられたときの状況のことである。
- ②その体験は、律法が神から与えられたものであることを証明している。
- ③律法は人間の作品ではなく、超自然的な性質を持ったものである。

2. 10節

Deu 4:10 あなたがホレブで、あなたの神、【主】の前に立った日に【主】は私に言われた。「民をわたしのもとに集めよ。わたしは彼らにわたしのことばを聞かせる。それによって、

彼らが地上に生きている日の間わたしを恐れることを学び、また彼らとその子どもたちに教えることができるように。」

- (1) ホレブとは、シナイ山のことである。
 - ①民は、エジプトを出てから約3ヶ月後にシナイ山の麓に着いた。
 - ②それから一年弱、民はそこに留まった。
 - ③そこで、贖われた民として生きるための指針となる律法を受けた。
 - ④贖いという事実があって、次に律法が与えられている。

- (2) ホレブで、モーセは神のことば(命令)を聞いた。
 - ①民を【主】の前に集めよ。
 - ②目的は、民に【主】のことばを聞かせるためである。
 - ③「わたしのことば」とは、律法のことばである。
 - ④律法の目的は、イスラエルの民に【主】への「恐れ」を学ばせるためである。
 - *「恐れ」とは、畏怖の念である。
 - *シャカイナグローリーが現れるのは、そのためである。
 - ⑤学んだ内容を、子どもたちに教えることができるように。

II. シャカイナグローリー (4:11~12)

1. 11節

Deu 4:11 そこであなたがたは近づいて来て、山のふもとに立った。山は燃え上がって火が中天に達し、闇と雲と暗黒があった。

- (1) シャカイナグローリーとは、目に見えない神の臨在の現われである。
 - ①神は、遍在するお方である。
 - ②「臨在」とは、神が特定の場に宿ることを言う。
 - ③ここでは、神の臨在はシャカイナグローリーとして見える形で現れた。
 - *火、黒雲、暗黒
 - ④つまり、シナイ山を覆うように、火の柱が立ったのである。

- (2) シャカイナグローリーは、【主】が全能の神であることを啓示している。
 - ①イスラエルの民は、全能の神の前に立っている。
 - ②そのお方は、【主】である。
 - ③【主】がイスラエルの民と契約を結ばれる。

2. 12節

Deu 4:12 【主】は火の中からあなたがたに語られた。あなたがたは語りかける声を聞いたが、御姿は見なかった。御声だけであった。

(1) 火の中から語りかける声も、シャカイナグローリーの現われである。

①民は、語りかける声は聞いたが、御姿は見なかった。

②申4:15

Deu 4:15 あなたがたは自分自身に十分に気をつけなさい。【主】がホレブで火の中からあなたがたに語られた日に、あなたがたは何の姿も見なかったからである。

③神の本質は、霊である。

④神は、被造世界の一部ではない。

⑤神は、永遠の過去から永遠の未来まで、存在しておられる。

(2) 聖書の中の最大の奇跡は、受肉である。

①神のことば(第二位格の神)は、人となられた。

②受肉は、神の「へりくだり」の啓示である。

③聖書は、人間イエスの容姿に関して、なんの描写もしていない。

④ヨハ1:18

Joh 1:18 いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。

⑤ヨハ4:24

Joh 4:24 神は霊ですから、神を礼拝する人は、御霊と真理によって礼拝しなければなりません。」

⑥イエスの肖像画は、真の信者には不要である。

*イエス・キリストの内住を実感できないと、肖像画に頼るようになる。

Ⅲ. シナイ契約(4:13~14)

1. 13節

Deu 4:13 主はご自分の契約をあなたがたに告げて、それを行うように命じられた。十のことばである。主はそれを二枚の石の板に書き記された。

(1) 【主】はイスラエルの民と契約を結ばれた。

①この契約を、シナイ契約と呼ぶ。

*モーセ契約とも言う。

②契約条項を、ご自分の指で二枚の石の板に書き記された。

*これが、十戒である。

③二枚とは、契約条項の正と副である。

*宗主権契約では、王が正を持ち、臣民が副を持った。

(2) 【主】は、シャカイナグローリーの中で語られた。

①それは、イスラエルの民に【主】への恐れを体験させるためである。

②律法に従う動機は、【主】への「恐れ」である。

2. 14節

Deu 4:14 【主】はそのとき、あなたがたに掟と定めを教えるように私に命じられた。あなたがたが、渡って行って所有しようとしている地で、それらを行うためであった。

(1) 十戒以外にも契約条項があった。

①「掟と定め」

②ジョン・ウェスレイの解説

*「掟」とは、礼拝や神への奉仕に関する律法である。

*「定め」とは、隣人への義務に関する律法である。

*掟+定め=律法の全体

(2) モーセは、掟と定めを教えるように神から命じられた。

①教える目的は、約束の地でそれを行うためである。

②律法に忠実に生きるなら、祝された生活が約束されている。

結論

1. 親の責務

(1) イスラエルの民は、教えるミニストリーを与えられている。

(2) 祭司やレビ人の役割は、民に律法を教えることである。

(3) しかし、最も重要なのは、家庭での宗教教育である。

(4) 申命記は、家庭での宗教教育の重視性を強調している。

①申 6:7

Deu 6:7 これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家で座っているときも道を歩くときも、寝るときも起きるときも、これを彼らに語りなさい。

②申 6:20、11:19、31:13、32:46

(5) 若者への教育を軽視する国は、衰退する。

①学校が宗教教育を施さないなら、その国は衰退する。

②教会がバイブルスタディを軽視するなら、信者は成長しない。

③しかし、最大の問題は、家庭で宗教教育を施さないことである。

2. 【主】への恐れ

(1) シャカイナグローリーの目的は、民に恐れを与えることである。

(2) 旧約聖書では、「恐れ」とは「恐怖の念」と「畏怖の念」を含んでいる。

(3) しかし、「恐れ」にはそれ以上の意味がある。

①神が道徳的に純粋なお方であるという認識

②神が全能のお方であるという認識

③【主】に従わないことへの純粋な恐れ

④真の礼拝、奉仕、信頼、献身などを通した応答

(4) 参考になる聖句

①箴1:7

Pro 1:7 【主】を恐れることは知識の初め。／愚か者は知恵と訓戒を蔑む。

②伝12:13

Ecc 12:13 結局のところ、／もうすべてが聞かされていることだ。／神を恐れよ。神の命令を守れ。／これが人間にとってすべてである。

③ルカ1:49~50

Luk 1:49 力ある方が、／私に大きなことをしてくださったからです。／その御名は聖なるもの、

Luk 1:50 主のあわれみは、代々にわたって／主を恐れる者に及びます。

④黙19:5

Rev 19:5 また、御座から声が出て、こう言った。／「神のすべてのしもべたちよ、／神を恐れる者たちよ、／小さい者も大きい者も／私たちの神を賛美せよ。」

申命記 13回
「偶像礼拝の禁止」
申 4 : 15~24

1. はじめに

(1) 申命記のアウトライン (宗主権契約の形式)

- ①第1の説教：歴史の回顧 (1 : 5~4 : 43)
- ②第2の説教：契約に基づく義務 (4 : 44~26 : 19)
- ③第3の説教：祝福と呪いの宣言 (27 : 1~29 : 1)
- ④第4の説教：契約条項のまとめ (29 : 2~30 : 20)

(2) イスラエルの民は、これからカナンの地に入ろうとしている。

- ①彼らは、正しい世界観と人生観を持つ必要があった。
- ②3章で、カナンの地征服の準備が始まった。

(3) 4章のアウトライン

- ①律法の目的 (4 : 1~8)
- ②ホレブでの体験の目的 (4 : 9~14)
- ③偶像礼拝の禁止 (4 : 15~24)
- ④離散の預言 (4 : 25~31)
- ⑤【主】だけが神 (4 : 32~40)
- ⑥逃れの町 (4 : 41~43)

2. メッセージのアウトライン

- (1) 偶像礼拝禁止の理由 (4 : 15)
- (2) 偶像礼拝の実例 (4 : 16~19)
- (3) イスラエルの民の特権 (4 : 20)
- (4) 警告の言葉 (4 : 21~24)

3. 結論：イスラエルの民の特権

偶像礼拝の禁止について学ぶ

I. 偶像礼拝禁止の理由 (4 : 15)

1. 15節

Deu 4:15 あなたがたは自分自身に十分に気をつけなさい。【主】がホレブで火の中からあなたがたに語られた日に、あなたがたは何の姿も見なかったからである。

- (1) ここでモーセは、ホレブでの体験を思い出させている。
 - ①彼らは、神の姿を見なかった。
 - ②見たのは、シャカイナグローリーだけであった。
 - *火の柱とそこから出て来る声
 - ③シャカイナグローリーは、イスラエルの民に畏怖の念を植え付けた。
 - ④イスラエルの民は、神は霊であることを学んだ。

- (2) ホレブでの体験の適用
 - ①神は被造世界の一部ではない。
 - ②それゆえ、被造世界のものを用いて神の像を造ってはならない。
 - ③偶像を造るのは、人間が設けた制限の中に神を閉じ込めることである。
 - ④それは、神の本質(遍在や全能)を制限し辱める行為である。

- (3) 「あなたがたは自分自身に十分に気をつけなさい」
 - ①イスラエルの民は、偶像を作らないように自分を見張る必要があった。
 - ②古代中近東では、偶像礼拝が盛んに行われていた。
 - ③カナン地の地に入ると、彼らは偶像礼拝の影響をもろに受けることになる。

II. 偶像礼拝の実例(4:16~19)

1. 16節

Deu 4:16 墮落して自分たちのために、どのような形の彫像も造らないようにしなさい。男の形も女の形も。

- (1) 「墮落して自分たちのために、どのような形の彫像も造らないように」
 - ①人は、真の神から離れると墮落して行く。
 - ②墮落すると、自分のために偶像を造るようになる。

- (2) 「どのような形の彫像も」
 - ①木であれ、金属であれ、石であれ、彫像を造ることは禁じられた。
 - ②これは、芸術活動を禁止しているわけではない。
 - (ILL) 人形を否定する教え

- (3) 「男の形も女の形も」
 - ①人間の形をした偶像を造ってはならない。

②申4:3

Deu 4:3 あなたがたは、【主】がバアル・ペオルのことでなされたことを自分の目を見た。バアル・ペオルに従った者すべてを、あなたの神、【主】はあなたのうちから根絶やしにされたのである。

*バアル・ペオルは、豊穡の女神である。

*この事件で、イスラエルの民はバアル神に初めて出会った。

③カナンの地でのアシュタロテ

④ギリシア・ローマ世界のヴィーナス

⑤ギリシア神話には、さまざまな男神（おがみ）と女神が登場する。

2. 17～18節

Deu 4:17 地上のどのような動物の形も、空を飛ぶ、翼のあるどのような鳥の形も。

Deu 4:18 地面を這うどのようなものの形も、地の下の水の中にいるどのような魚の形も。

(1) これは、エジプトでの偶像礼拝を意識した禁止令である。

①哺乳類では、雄牛、雌牛、羊、ヤギ、獅子、犬、猿、猫の偶像があった。

②鳥類では、トキ、鶴、鷹の偶像があった。

③爬虫類や両生類では、ワニ、蛇、カエル、ハエ、カブトムシの偶像があった。

⑤魚類では、ナイル川に生息する魚の偶像があった。

*ナイル川まで神格化された。

3. 19節

Deu 4:19 また、天に目を上げて、太陽、月、星など天の万象を見るとき、惑わされてそれらを拝み、それらに仕えることのないようにしなさい。それらのものは、あなたの神、【主】が天下のあらゆる民に分け与えられたものである。

(1) これもエジプトでの偶像礼拝を意識した禁止令である。

①天体を偶像化してはならない。

②エジプトでは、太陽神は「ラー」である。

(2) これから入って行こうとしているカナンの地でも、天体礼拝が行われていた。

①エリコは、月神に捧げられた町であった。

(3) 天体は、【主】が地上のすべての民に分け与えたものである。

①それゆえ、ひとつの民が、独占すべきものではない。

②また、礼拝の対象とすべきものではない。

Ⅲ. イスラエルの民の特権(4:20)

1. 20節

Deu 4:20 【主】はあなたがたを取って、鉄の炉から、すなわちエジプトから導き出し、今日のようにゆずりの民とされたのである。

(1) 偶像礼拝を避けるべき理由

- ①【主】はイスラエルの民をエジプトから導き出された。
- ②つまり、イスラエルの民は偶像礼拝の地から解放されたということである。
- ③申命記では、「エジプトから導き出された」という表現が約20回出て来る。
- ④イスラエルの民は、「鉄の炉から」導き出されたのである。
 - *これは、奴隷状態を描写する比喩的表現である。
 - *奴隷状態は、鉄の炉の中で精錬されるような厳しさであった。
 - *この言葉は、当時エジプトに鉄器があったことを示唆している。

(2) 訳文の比較

- 「今日のようにゆずりの民とされた」(新改訳2017)
- 「今日のように御自分の嗣業の民とされた」(新共同訳)
- 「自分の所有の民とされた。きょう、見るとおりである」(口語訳)
- 「特別な国民として宝物のように大切に守ってくださる」(リビングバイブル)

(3) イスラエルは、地上で特別な民とされた。

①詩33:12

Psa 33:12 幸いなことよ／【主】を自らの神とする国は。／神がご自分のゆずりとして選ばれた民は。

Ⅳ. 警告の言葉(4:21~24)

1. 21~22節

Deu 4:21 しかし【主】は、あなたがたのゆえに私に向かって怒り、私がヨルダン川を渡ることも、またあなたの神、【主】があなたにゆずりの地として与える、良い地に入ることもないと誓われた。

Deu 4:22 まことに私はこの地で死のうとしている。私はヨルダン川を渡らない。しかし、あなたがたは渡って、あの良い地を所有しようとしている。

(1) 再びモーセは、自分がカナンの地に入れないことを民に伝える。

- ①神は、モーセの不信仰を怒られた。
- ②それゆえ、良い地に入るができなくなった。

(2) 自分は、良い地において民を導くことができない。

- ①それゆえ、偶像礼拝に陥らないように十分注意する必要がある。
- ②もし墮落するなら、【主】ご自身が裁きをもって民を矯正される。
- ③これは、遺言のような言葉である。

2. 23節

Deu 4:23 気をつけて、あなたがたの神、【主】があなたがたと結ばれた契約を忘れることのないように、またあなたの神、【主】の命令に背いて、いかなる形の彫像も造ることがないようにしなさい。

(1) 注意すべき2つのこと

- ①【主】との契約を忘れることのないように。
*シャカイナグローリーに囲まれながら【主】と結んだシナイ契約である。
- ②いかなる形の彫像も造ることがないように。
*これは、【主】の命令に背くことである。

3. 24節

Deu 4:24 あなたの神、【主】は焼き尽くす火、ねたみの神である。

(1) 「【主】は焼き尽くす火」

- ①【主】は、墮落した民を炉で精錬される。
- ②その目的は、民の中から「金かす」を取り除くことにある。
- ③ガラ6:7

Gal 6:7 思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります。

(2) 「ねたみの神である」

- ①通常「ねたみ」という言葉は、否定的な意味で使われる。
- ②ここでは、良い意味で使われている。
- ③ご自分の栄光を、誰とも分かち合わないという意味である。
- ④イザ42:8

Isa 42:8 わたしは【主】、これがわたしの名。／わたしは、わたしの栄光をほかの者に、／わたしの栄誉を、刻んだ像どもに与えはしない。

結論：イスラエルの民の特権

1. イスラエルの民に関する描写

(1) 出4:22

Exo 4:22 そのとき、あなたはファラオに言わなければならない。／【主】はこう言われる。
『イスラエルはわたしの子、わたしの長子である。』

(2) 申 7 : 6

Deu 7:6 あなたは、あなたの神、【主】の聖なる民だからである。あなたの神、【主】は地の面のあらゆる民の中からあなたを選んで、ご自分の宝の民とされた。

(3) 申 32 : 9

Deu 32:9 主の分はその民であって、ヤコブはその定められた嗣業である。(口語訳)

(4) 詩 100 : 3

Psa 100:3 知れ。【主】こそ神。／主が 私たちを造られた。／私たちは主のもの 主の民 その牧場の羊。

(5) 詩 89 : 18

Psa 89:18 私たちの盾は【主】のもの／私たちの王は イスラエルの聖なる方のもの。

(6) イザ 1 : 2

Isa 1:2 天よ、聞け。地も耳を傾けよ。／【主】が語られるからだ。／「子どもたちはわたしが育てて、大きくした。／しかし、彼らはわたしに背いた。」

(7) エレ 2 : 3

Jer 2:3 イスラエルは【主】の聖なるもの、／その収穫の初穂であった。／これを食らう者はだれでも罰を受け、／わざわいを被った。／——【主】のことは——

2. 異邦人信者に関する描写

(1) エペ 3 : 6

Eph 3:6 それは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人も共同の相続人になり、ともに同じからだに連なって、ともに約束にあずかる者になるということです。

(2) 奥義の内容

- ①異邦人信者は、キリストにあって共同の相続人となった。
- ②異邦人信者は、オリーブの幹に接ぎ木された野生種の枝である。
- ③信仰のあるイスラエルと信仰のある異邦人が、ひとつにされる。

(3) 異邦人信者にとっても、偶像礼拝は忌むべきものである。

申命記 14回

「離散の預言」

申 4 : 25~31

1. はじめに

(1) 申命記のアウトライン (宗主権契約の形式)

- ①第1の説教：歴史の回顧 (1 : 5~4 : 43)
- ②第2の説教：契約に基づく義務 (4 : 44~26 : 19)
- ③第3の説教：祝福と呪いの宣言 (27 : 1~29 : 1)
- ④第4の説教：契約条項のまとめ (29 : 2~30 : 20)

(2) イスラエルの民は、これからカナンの中に入ろうとしている。

- ①彼らは、正しい世界観と人生観を持つ必要があった。
- ②3章で、カナンの地征服の準備が始まった。

(3) 4章のアウトライン

- ①律法の目的 (4 : 1~8)
- ②ホレブでの体験の目的 (4 : 9~14)
- ③偶像礼拝の禁止 (4 : 15~24)
- ④離散の預言 (4 : 25~31)
- ⑤【主】だけが神 (4 : 32~40)
- ⑥逃れの町 (4 : 41~43)

2. メッセージのアウトライン

- (1) 天と地を証人に (4 : 25~26a)
- (2) 追放の預言 (4 : 26b~28)
- (3) 回復の預言 (4 : 29~31)

3. 結論

- (1) 裁きの目的
- (2) 回復の根拠

離散の預言について学ぶ

I. 天と地を証人に (4 : 25~26a)

1. 25節

Deu 4:25 あなたが子や孫をもうけ、あなたがたがその地に長く住むうちに墮落して、何かの形に刻んだ像を造り、あなたの神、【主】の目に悪であることを行い、御怒りを引き起こすようなことがあれば、

(1) 前回の箇所では、偶像礼拝が厳しく禁止された(4:15~24)。

- ①【主】はイスラエルの民をエジプトから導き出された。
- ②イスラエルの民は、偶像礼拝の地から解放された。
- ③偶像礼拝は、霊であり全能である神を制限し、冒瀆する行為である。
- ④偶像礼拝は、【主】に背く行為である。

(2) この箇所では、偶像礼拝に対する裁きが預言されている。

- ①モーセは、イスラエルの民が偶像礼拝に陥る可能性を予見している。
 - *時間の経過：カナンの地に長く住む。
 - *次世代の出現：子や孫をもうける。
 - *生活の安定：平穏で豊かな生活に満足し始める。
- ②偶像礼拝へのステップ
 - *【主】にのみ頼るということを忘れる。
 - *【主】を忘れると、必然的に墮落する。
 - *墮落した魂は、偶像を造るようになる。
 - *さらに、【主】の目に悪であることを行うようになる。
- ③偶像礼拝は、御怒りを引き起こすようになる。

(3) 士師記の時代になると、モーセが予見したことが起こる(士2:8~11)。

Jdg 2:8 【主】のしもべ、ヌンの子ヨシュアは百十歳で死んだ。

Jdg 2:9 人々は彼をガアシユ山の北、エフライムの山地にある、彼の相続地の領域にあるティムナテ・ヘレスに葬った。

Jdg 2:10 その世代の者たちもみな、その先祖たちのもとに集められた。そして彼らの後に、【主】を知らず、主がイスラエルのために行われたわざも知らない、別の世代が起こった。

Jdg 2:11 すると、イスラエルの子らは【主】の目に悪であることを行い、もろもろのバアルに仕えた。

2. 26節 a

Deu 4:26a 私は今日、次のことで、あなたがたに対して天と地を証人に立てる。

- (1) モーセは、天と地を証人に立てて、偶像礼拝に下る神の裁きの預言を語る。
 - ①通常の宗主権契約では、神々が証人として召集される。
 - ②契約違反があった場合は、神々が介入して違反を修正すると考えられた。
 - ③申命記では、証人は神々でも人間でもなく、天と地である。

- ④天と地は、神々や人間の「移り気な性質」とは対照的である。
- ⑤天と地が偶像化されているということではない。
- ⑥天と地は、被造世界全体を象徴している。

(2) 天と地は、【主】との契約が永遠であることを示している。

①エレ 33 : 20~21

Jer 33:20 【主】はこう言われる。「もしもあなたがたが、昼と結んだわたしの契約と、夜と結んだわたしの契約を破ることができ、昼と夜が、定まった時に来ないようにすることができるのであれば、

Jer 33:21 わたしのしもべダビデと結んだわたしの契約も破られ、ダビデにはその王座に就く子がいなくなり、わたしに仕えるレビ人の祭司たちと結んだわたしの契約も破られる。

- ②ダビデ契約は無条件契約であるが、シナイ契約は条件付契約である。
- ③永遠とは、その時代が終わるまでは途切れることがないという意味である。

(3) 神が民を裁かれるとき、神は天と地を証人として呼び出される。

①詩 50 : 4

Psa 50:4 神は上なる天を また地を呼び集められる。／ご自分の民をさばくために。

- ②民が裁きを受けるとするなら、それは予告されていたとおりのことである。

II. 追放の預言 (4 : 26b~28)

1. 26節 b

Deu 4:26b あなたがたは、ヨルダン川を渡って所有しようとしているその地から追われ、たちまち滅び失せる。そこで、あなたがたは長く生きるどころか、すっかり根絶やしにされる。

(1) イスラエルの民は、カナンに定住しようとしている。

- ①その地で長く生きるための条件は、【主】に従うということである。

(2) もし偶像礼拝に陥るなら、裁きが下る。

- ①その地から追われ、たちまち滅びる。
- ②その地に長く住むことができず、根絶やしにされる。
- ③裁きは2つの形で下る。

*それが次の27節と28節の内容である。

2. 27~28節

Deu 4:27 また、【主】はあなたがたを諸国の民の中に散らされ、あなたがたは【主】が追いやる国々の中で、ごくわずかな者として生き残ることになる。

Deu 4:28 あなたがたはそこで、見ることも聞くこともできず、食べることも嗅ぐこともできない、人の手のわざである木や石の神々に仕える。

(1) イスラエルの民は、諸国の民の中に散らされる。

①【主】がイスラエルの民を国々の中に追いやる。

②多くの死者が出、わずかな者だけが生き残る。

*「men of number」(かぞえられるほど少数)

*住んでいる国の異邦人の人口と比較して少数

③ネへ1:3

Neh 1:3 彼らは私に答えた。「あの州で捕囚を生き残った者たちは、大きな困難と恥辱の中にあります。そのうえ、エルサレムの城壁は崩され、その門は火で焼き払われたままです。」

(2) イスラエルの民は、偶像に仕えるようになる。

①偶像礼拝に陥った民は、離散の地で偶像に仕えるようになる。

②詩115:4~7

Psa 115:4 彼らの偶像は銀や金。／人の手のわざにすぎない。

Psa 115:5 口があっても語れず／目があっても見えない。

Psa 115:6 耳があっても聞こえず／鼻があっても嗅げない。

Psa 115:7 手があってもさわれず／足があっても歩けない。／喉があっても声をたてることができない。

③イスラエルの民は、無力な偶像に仕えることになる。

(3) この追放の預言は、すでに成就している。

①アッシリヤ捕囚

②バビロン捕囚

③紀元70年の全世界への離散

*イスラエルの民は、今もこの影響を受けている。

Ⅲ. 回復の預言(4:29~31)

1. 29節

Deu 4:29 しかしそこから、あなたがたがあなたの神、【主】を探し求め、心を尽くし、いのちを尽くして求めるとき、あなたは主にお会いする。

(1) 回復の道は用意されている。

- ①【主】を探し求める。
- ②心を尽くし、いのちを尽くして求める。
- ③そうするなら、主にお会いする。

(2) この預言の例を、アサ王による宗教改革に見ることができる。

①2歴15:15

2Ch 15:15 ユダの人々はみなその誓いを喜んだ。それは、彼らが心のすべてをもって誓いを立て、ただ一筋に主を慕い求め、そして主がご自分を彼らに示されたからである。【主】は周囲の者から守って彼らに安息を与えられた。

2. 30節

Deu 4:30 こうして終わりの日に、これらすべてのことがあなたに臨み、あなたが苦しみのうちにあるとき、あなたは、あなたの神、【主】に立ち返り、御声に聞き従う。

- (1) 終末論時代の預言が語られる。
 - ①イスラエルの民は苦しみに遭う。
 - *7年間の患難期
 - *これは、聖書で最初に登場する患難期の預言であろう。
 - ②イスラエルの民は、自分たちが拒否したお方がメシアであることを認める。
 - *真実な悔い改めと立ち返りが見られるようになる。
 - ③その時キリストが地上に再臨されることを、私たちは知っている。

3. 31節

Deu 4:31 あなたの神、【主】はあわれみ深い神であり、あなたを捨てず、あなたを滅ぼさず、あなたの父祖たちに誓った契約を忘れないからである。

- (1) この預言が成就する保証は、【主】のご性質にある。
 - ①「【主】はあわれみ深い神であり」
 - *「あわれみ深い」は、ヘブル語で「ラフム」である。
 - *母親が幼子に示す愛である。
 - ②「あなたを捨てず」
 - *母親は、無力な幼子を捨てることはできない。
 - ③「あなたを滅ぼさず」
 - *母親の愛は、幼子を守る。
 - ④「あなたの父祖たちに誓った契約を忘れない」
 - *神は、アブラハムと契約を結ばれた。
 - *神は、イサクとヤコブに対してその契約を追認された。
 - *神は、その契約を忘れない。

結論

*イスラエルは、神が人類をどのように扱うかを示すリトマス試験紙である。

*イスラエルの歴史を学ぶと、多くの適用を発見することができる。

1. 裁きの目的

(1) 申8:5

Deu 8:5 あなたは、人がその子を訓練するように、あなたの神、【主】があなたを訓練されることを知らなければならない。

(2) ヘブ12:4~6

Heb 12:4 あなたがたは、罪と戦って、まだ血を流すまで抵抗してありません。

Heb 12:5 そして、あなたがたに向かって子どもたちに対するように語られた、この励ましのことばを忘れていません。／「わが子よ、主の訓練を軽んじてはならない。／主に叱られて気落ちしてはならない。

Heb 12:6 主はその愛する者を訓練し、／受け入れるすべての子に、／むちを加えられるのだから。」

(3) イスラエルの民は、2度の捕囚体験によって、偶像礼拝から離れた。

2. 回復の根拠

(1) 先祖たちに誓った契約を忘れないから。

①ここでは、アブラハム契約のことである。

②アブラハム契約から、土地の契約、ダビデ契約、新しい契約が派生する。

(2) ロマ11:28~29

Rom 11:28 彼らは、福音に関して言えば、あなたがたのゆえに、神に敵対している者ですが、選びに関して言えば、父祖たちのゆえに、神に愛されている者です。

Rom 11:29 神の賜物と召命は、取り消されることがないからです。

(3) 2コリ7:10

2Co 7:10 神のみこころに添った悲しみは、後悔のない、救いに至る悔い改めを生じさせますが、世の悲しみは死をもたらします。

申命記 15回
「【主】だけが神」
申 4 : 32~43

1. はじめに

(1) 申命記のアウトライン (宗主権契約の形式)

- ①第1の説教：歴史の回顧 (1 : 5~4 : 43)
- ②第2の説教：契約に基づく義務 (4 : 44~26 : 19)
- ③第3の説教：祝福と呪いの宣言 (27 : 1~29 : 1)
- ④第4の説教：契約条項のまとめ (29 : 2~30 : 20)

(2) イスラエルの民は、これからカナン地に入ろうとしている。

- ①彼らは、正しい世界観と人生観を持つ必要があった。
- ②3章で、カナン地征服の準備が始まった。

(3) 4章のアウトライン

- ①律法の目的 (4 : 1~8)
- ②ホレブでの体験の目的 (4 : 9~14)
- ③偶像礼拝の禁止 (4 : 15~24)
- ④離散の預言 (4 : 25~31)
- ⑤【主】だけが神 (4 : 32~40)
- ⑥逃れの町 (4 : 41~43)

2. メッセージのアウトライン

- (1) 歴史に尋ねてみよ (4 : 32~34)
- (2) 【主】は語られた (4 : 35~38)
- (3) 【主】に従え (4 : 39~40)
- (4) 挿入句：逃れの町 (4 : 41~43)

3. 結論

- (1) シャカイナグローリー
- (2) 神の選び

第一の説教の結論について学ぶ

I. 歴史に尋ねてみよ (4 : 32~34)

1. 32節

Deu 4:32 さあ、あなたより前の過ぎ去った時代に尋ねてみるがよい。神が地上に人を創造された日からこのかた、天の果てから天の果てまで、これほど偉大なことが起こっただろうか。このようなことが聞かれたらどうか。

(1) 文脈は、偶像礼拝への警告である。

①モーセは、「終わりの日」について語った。

*申4:30

Deu 4:30 こうして終わりの日に、これらすべてのことがあなたに臨み、あなたが苦しみのうちにあるとき、あなたは、あなたの神、【主】に立ち返り、御声に聞き従う。

②次に、過去(過ぎ去った時代)について語り始める。

(2) 歴史の回顧

①「さあ」は、ヘブル語で「キ」、英語で「For」(なぜなら)である。

②この接続詞を訳していない聖書訳が多いが、「キ」には、重要な役割がある。
「偶像礼拝を行ってはならない。なぜなら、過去に偉大な神を経験したから」

(3) 「尋ねてみるがよい」

①「試みにあなたの前に過ぎ去った日について問え」(口語訳)

②時間の広がり: 天地創造からシナイ山での出来事まで(全ての時)

③空間の広がり: 天の果てから天の果てまで(全ての場所)

④マタ24:31

Mat 24:31 人の子は大きなラッパの響きとともに御使いたちを遣わします。すると御使いたちは、天の果てから果てまで四方から、人の子が選んだ者たちを集めます。

⑤イスラエルの民の神体験は、比類なきものである。

*彼らは、シャカイナグローリーを目撃した。

*彼らは、契約の民として選ばれた。

2. 33節

Deu 4:33 火の中から語られる神の声を聞いて、あなたのようになお生きていた民があったらどうか。

(1) イスラエルの民の神体験の中心は、シャカイナグローリーである。

①彼らは、シナイ山から立ち上る火の柱を見た。

②彼らは、火の柱の中から語られる神の声を聞いた。

③それでも、イスラエルの民は死ななかった。

(2) モーセの体験(出33:18~23)

Exo 33:18 モーセは言った。「どうか、あなたの栄光を私に見せてください。」

Exo 33:19 主は言われた。「わたし自身、わたしのあらゆる良きものをあなたの前に通らせ、【主】の名であなたの前に宣言する。わたしは恵もうと思う者を恵み、あわれもうと思う者をあわれむ。」

Exo 33:20 また言われた。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。」

Exo 33:21 また【主】は言われた。「見よ、わたしの傍らに一つの場所がある。あなたは岩の上に立て。」

Exo 33:22 わたしの栄光が通り過ぎるときには、わたしはあなたを岩の裂け目に入れる。わたしが通り過ぎるまで、この手であなたをおおっておく。

Exo 33:23 わたしが手をのけると、あなたはわたしのうしろを見るが、わたしの顔は決して見られない。」

3. 34節

Deu 4:34 あるいは、あなたがたの神、【主】がエジプトにおいて、あなたの目の前であなたがたのためになさったように、試みと、しるしと不思議と、戦いをもって、また力強い御手と伸ばされた御腕と、恐ろしい力をもって、一つの国民をほかの国民の中から取り、ご自分のものにされた神がかつてあったらどうか。

(1) イスラエルの民の選びは、実にユニークなものである。

①神は、強力な国民（エジプト）の中から弱い国民（イスラエル）を取り、ご自分の民とされた。

(2) 古代中近東の神々も、特定の個人や国を選ぶことがあった。

①しかしこれは、実態のない単なるプロパガンダである。

②【主】の選びには実態が伴っていた。

③【主】は、数々の奇跡を行われた。

* 試み、しるしと不思議、戦い

* 力強い御手と伸ばされた御腕、恐ろしい力

④さらに、【主】はイスラエルの民に啓示を与えた。

II. 【主】は語られた（4：35～38）

1. 35節

Deu 4:35 あなたにこのことが示されたのは、【主】だけが神であり、ほかに神はいないことを、あなたが知るためであった。

(1) イスラエルの民の体験は、神への恐れを与えるためであった。

①【主】だけが神である。

②ほかに神はいない。

2. 36節

Deu 4:36 主はあなたを訓練するため、天から御声を聞かせ、地の上では大いなるご自分の火を見せられた。その火の中から、あなたはみことばを聞いた。

(1) イスラエルの民の体験は、主からの訓練であった。

- ①彼らは、天からの御声を聞いた。
- ②彼らは、地の上では神の臨在を示す火を見た。
- ③それは、神への恐れを学ばせるための訓練であった。

3. 37～38節

Deu 4:37 主はあなたの父祖たちを愛し、その後の子孫を選んでいたので、ご臨在中、大いなる力をもってあなたをエジプトから導き出された。

Deu 4:38 それは、あなたよりも大きくて強い国々をあなたの前から追い払い、あなたを彼らの地に導き入れ、今日見るとおり、彼らの地をゆずりの地としてあなたに与えるためであった。

(1) イスラエルの民の選びの理由

- ①主は父祖たち(族長たち)を愛された。
- ②主は、その後の子孫が選びの民となるように計画しておられた。
- ③父祖たちとの契約の故に、主はイスラエルをエジプトから導き出された。

(2) 出エジプトの目的

- ①イスラエルの民よりも大きくて強い国々を追い払うため

*申7:1

Deu 7:1 あなたが入って行って所有しようとしている地に、あなたの神、【主】があなたを導き入れるとき、主は、あなたよりも数多くまた強い七つの異邦の民、すなわち、ヒッタイト人、ギルガシ人、アモリ人、カナン人、ペリジ人、ヒビ人、およびエブス人をあなたの前から追い払われる。

- ②イスラエルの民を彼らの地に導き入れる。
- ③彼らの地を、イスラエルの民に与える。

Ⅲ. 【主】に従え(4:39～40)

1. 39～40節

Deu 4:39 今日あなたは、上は天、下は地において【主】だけが神であり、ほかに神はいないことを知り、心にとどめなさい。

Deu 4:40 今日、私が命じる主の掟と命令を守りなさい。あなたも、あなたの後の子孫も幸せになり、あなたの神、【主】が永久に与えようとしておられるその土地で、あなたの日々が長く続くようにするためである。

- (1) イスラエルの民の信仰は、比類なき神体験の上に乗っている。
 - ①【主】だけが神である。
 - ②ほかに神はいない。

- (2) 約束の地での祝された生活のためには、【主】の掟と命令を守る必要がある。
 - ①今の世代も後の世代も、【主】に従順であるなら長く住むことが出来る。
 - ②【主】は、その地をイスラエルの民に永久に与えようとしておられる。
 - ③【主】に従順であれば、病や試練から完全に解放されるという意味ではない。
 - ④問題を乗り越える力が与えられ、神の御心が行われるという意味である。
 - ⑤クリスチャン生活も、それと同じである。

(3) 以上の要約が申 6：4～5 に出て来る。

Deu 6:4 聞け、イスラエルよ。【主】は私たちの神。【主】は唯一である。

Deu 6:5 あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、【主】を愛しなさい。

IV. 挿入句：逃れの町（4：41～43）

1. 41 節

Deu 4:41 それからモーセは、ヨルダンの川向こう、すなわち東の方に、三つの町を取り分けた。

- (1) 第 1 の説教と第 2 の説教の間に、逃れの町に関する説明が置かれている。
 - ①恐らく、編集者の判断であろう。
 - ②逃れの町は、合計 6 つ選ばれた。
 - ③3 つはヨルダン川の東、3 つはヨルダン川の西に置かれた。
 - ④地理的に分散するように選ばれた
 - ⑤ヨルダン川の東の地が征服されたので、ここで 3 つの町が紹介された。

2. 42 節

Deu 4:42 前から憎んでいたわけではない隣人を意図せずに殺してしまった者が、そこに逃れるためであった。その者はこれらの町の一つに逃れて、生き延びることができる。

- (1) 逃れの町は、過失によって隣人を殺した者のために設けられた。
 - ①詳細は、民 35 章で説明されている。

- ②町の長老たちは、そこに逃れた者を、復讐を企てる者から守る義務があった。
- ③そこに逃れた者は、現役の大祭司が死ぬまで、その町に留まった。

3. 43節

Deu 4:43 それは、ルベン人には台地の荒野のベツェル、ガド人にはギルアデのラモテ、マナセ人にはバシヤンのゴランであった。

- (1) ルベン人のためには、台地の荒野のベツェル。
- (2) ガド人のためには、ギルアデのラモテ。
- (3) マナセ人のためには、バシヤンのゴラン。

結論

- *第一の説教(歴史の回顧)が終わった。
- *モーセは、イスラエルの民の体験が特別なものであることを示した。
- *それゆえ、イスラエルの民は【主】の掟と定めに従順に生きる必要がある。

1. シャカイナグローリー

- (1) イスラエルの民は、シャカイナグローリーを目撃した。
- (2) 使徒たちもシャカイナグローリーを目撃した(ヨハ1:14)。

Joh 1:14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

- (3) ペテロ、ヤコブ、ヨハネは、山上で文字通りイエスの栄光を目撃した。
- (4) イエスの公生涯は、神の栄光の反映であった。
- (5) 私たちは、福音書を読むことによって、神の栄光を体験することができる。
- (6) 御子を見たのは、神を見たことである。
- (7) この体験は、あらゆる試練に打ち勝つ力となる。

2. 神の選び

- (1) イスラエルの民は、神によって選ばれた。
- (2) 私たちも、神によって選ばれた。
- (3) エペ1:3~4

Eph 1:3 私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。神はキリストにあって、天上にあるすべての霊的祝福をもって私たちに祝福してくださいました。

Eph 1:4 すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方にあって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。

申命記 16回
「第2の説教の始まり」
申4:44~5:5

1. はじめに

(1) 申命記の構造 (宗主权契約に基づく4つの説教)

① 第1の説教: 歴史の回顧 (1:5~4:43)

② 第2の説教: 契約に基づく義務 (4:44~26:19)

* 総論: 臣下の義務 (4:44~5:33)

* 全的従順の呼びかけ (6~11章)

* 律法の解説と日常生活への適用 (12:1~26:15)

* 【主】に対する誓約 (26:16~19)

2. メッセージのアウトライン

(1) 第2の説教の舞台設定 (4:44~49)

(2) 従順な歩みへの呼びかけ (5:1~5)

3. 結論

(1) 約束の地の手付金

(2) 先ず恵み、次に従順

第二の説教の始まりについて学ぶ

I. 第2の説教の舞台設定 (4:44~49)

* 律法の内容は、5章以降に出て来る。

* この箇所は、モーセがイスラエルの民に律法を語ったときの状況を説明している。

1. 44~45節

Deu 4:44 これは、モーセがイスラエルの子らに示したみおしえである。

Deu 4:45 これらはさとしと掟と定めであり、イスラエルの子らがエジプトを出たとき、モーセが彼らに告げたものである。

(1) 「これは、…みおしえである」

① 「トーラー」 = 「instruction」

② 「指図、指示、命令、教え」

③ モーセが【主】から受け、イスラエルの民に示した。

④ その内容は、5章以降に出て来る。

(2) 「これらはさとしと掟と定めであり」

訳文の比較

「これらはさとしと掟と定め」 (新改訳 2017)

「定めと掟と法」 (新共同訳)

「あかしと、定めと、おきて」 (口語訳)

「誠命(いましめ)と法度(のり)と律法(おきて)」 (文語訳)

- ① 「さとし」 = 「あかし」 (testimonies) (神が証明した教え)
- ② 「定めと掟」 (4:1 で、ジョン・ウェスレイの解説を紹介した)
 - * 「掟」とは、礼拝や神への奉仕に関する律法である。
 - * 「定め」とは、隣人への義務に関する律法である。
 - * この2つは、十戒の2枚の石版に対応している。

(3) 「イスラエルの民がエジプトを出たとき」

- ① 律法は、エジプトを出てから3ヶ月後に、シナイ山で与えられた。
- ② 申命記は、新しい契約ではなく、すでに与えられていた契約の更新である。
- ③ この契約の更新は、ヨルダン川の東岸を征服した時点で行われた。

(4) 「モーセが彼らに告げたものである」

- ① 約束の地で長く生きるためには、【主】の「みおしえ」を忠実に行う必要がある。
- ② これは、モーセの遺言である。
- ③ 私が子どもたちに残す遺言は、「神を信じて生きるように」である。

2. 46～47節 a

Deu 4:46 そこはヨルダンの川向こう、アモリ人の王シホンの地のベテ・ペオルの前にある谷であった。このシホンはヘシュボンに住んでいたが、モーセとイスラエルの子らがエジプトから出て来たときに、彼らは彼を討った。

Deu 4:47a そして、シホンの地と、バシヤンの王オグの地を占領した。

(1) シナイ契約が更新された場所

- ① ヨルダンの川向こう
- ② アモリ人の王シホンの地のベテ・ペオルの前にある谷
- ③ この場所は、すでにイスラエルの民によって征服されている。

(2) アモリ人の王シホンは、ヘシュボンの王であった。

- ① イスラエルの民は、シホンを討った。
- ② これは、イスラエルの新しい世代が初めて戦った戦争であった。

(3) さらに、バシヤンの王オグの地も占領した。

①バシヤンの地を征服せずに、カナンの地に向けて進軍することはできない。

3. 47b～49節

Deu 4:47b そこはヨルダンの川向こう、東の方にいた二人のアモリ人の王の地で、

Deu 4:48 アルノンの溪谷の縁にあるアロエルからシーオン山、すなわちヘルモンまで、

Deu 4:49 またヨルダンの川向こう、東側のアラバの全土、ピスガの傾斜地のふもとにあるアラバの海までであった。

(1) 地理的境界線が確認される。

①アルノンの溪谷の縁にあるアロエルからヘルモン山まで

②ヨルダン川の東側のアラバの全域

③ピスガの傾斜地のふもとにあるアラバの海（塩の海）まで

(2) アモリ人の土地を征服したという事実は、神の約束を信じる根拠である。

①それ以上に重要なのは、イスラエルの民の神体験である。

②モーセには、【主】の律法に従えと教える十分な理由と根拠があった。

II. 従順な歩みへの呼びかけ（5：1～5）

1. 1節

Deu 5:1 モーセはイスラエルをみな呼び寄せて、彼らに言った。／聞け、イスラエルよ。今日、私があなたがたの耳に語る掟と定めを。これを学び、守り行いなさい。

(1) モーセは、できる限りの声を上げて、イスラエルの民に語った。

①その声は、モーセの内側から出て来る力ある、真実な声であった。

(2) 「聞け、イスラエルよ」

①モーセは、律法への従順が生死にかかわることを伝えようとした。

②掟と定めを聞き、それを学び、それを守り行え。

③創 49：1

Gen 49:1 ヤコブは息子たちを呼び寄せて言った。／「集まりなさい。／私は、終わりの日に／おまえたちに起こることを告げよう。

④ヨハ 7：37

Joh 7:37 さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立ち上がり、大きな声で言われた。「だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。

2. 2～3節

Deu 5:2 私たちの神、【主】はホレブで私たちと契約を結ばれた。

Deu 5:3 【主】はこの契約を私たちの先祖と結ばれたのではなく、今日ここに生きている私たち一人ひとりと結ばれたのである。

- (1) 「私たちの神、【主】はホレブで私たちと契約を結ばれた」
 - ①これは、シナイ契約である。
 - ②モーセとカレブとヨシュア以外は滅びたが、イスラエルは民族としては生き延びた。
 - ③【主】がイスラエルの民と結んだシナイ契約は、有効である。
- (2) 「【主】はこの契約を私たちの先祖と結ばれたのではなく、」
 - ①シナイ契約は、死者ではなく、生きている者に適用される。
- (3) 「今日ここに生きている私たち一人ひとりと結ばれたのである」
 - ①シナイ契約は、イスラエルの民の中の生きている者に適用される。

3. 4～5節

Deu 5:4 【主】はあの山で、火の中からあなたがたに顔と顔を合わせて語られた。

Deu 5:5 あのと、私は【主】とあなたがたの間に立ち、【主】のことばをあなたがたに告げた。あなたがたが火を恐れて、山に登らなかったからである。主は言われた。

- (1) シナイ山で、【主】はシャカイナグローリーの中から語られた。
 - ①「顔と顔を合わせて」
 - ②出 33 : 11

Exo 33:11 【主】は、人が自分の友と語るように、顔と顔を合わせてモーセと語られた。モーセが宿営に帰るとき、彼の従者でヌンの子ヨシュアという若者が天幕から離れないでいた。

- (2) モーセは、仲介者として、【主】のことばを民に伝えた。
 - ①民は火を恐れて、山に登らなかった。
 - ②それゆえ、モーセが仲介者となった。
 - ③モーセは、【主】から聞いたことを民に伝えた。
 - ④その内容は、生きているイスラエル(今のイスラエル)に向けられたもの。
- (3) シナイ山での契約締結とモアブの地での契約更新の対比
 - ①シナイ山での契約締結
 - *民は火を恐れた。
 - *恐ろしい光景が展開された。
 - ②モアブの地での契約更新

- *民には恐れはない。
- *恵みと希望に満ちた光景が展開された。
- ③申5：6以降で、律法の内容が解説される。
- *最初に出て来るのは、十戒である。

結論

1. 約束の地の手付金

(1) シホンとオグの領地は、約束の地の手付金である。

- ①ルベン族、ガド族、マナセの半部族は、ヨルダン川東岸に領地を得た。
- ②モーセは、この手付金を基に約束の地の征服を確約することができた。

(2) クリスチャンにとっては、手付金は聖霊である。

①エペ1：13～14

Eph 1:13 このキリストにあって、あなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞いてそれを信じたことにより、約束の聖霊によって証印を押されました。

Eph 1:14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。このことは、私たちが贖われて神のものとされ、神の栄光がほめたたえられるためです。

- ②救いはユダヤ人だけのものではなく、異邦人のものでもある。
- ③福音を聞き、それを信じた者には聖霊の証印が押された。
- ④それは、私たちが約束のものを相続することの保証となった。
- ⑤私たちは、川の東にいる（地上生涯）が、やがて向こう岸に渡る。
- ⑥聖霊は、永遠のいのちと力の前味（前触れ）である。
- ⑦聖霊を意識すればするほど、霊の戦いに勝利することができる。

2. 先ず恵み、次に従順

(1) 宗主権契約の形式

- ①第1の説教：歴史の回顧（1：5～4：43）
- ②第2の説教：契約に基づく義務（4：44～26：19）

(2) 神は先ず恵みを与え、次に従順を要求する。

- ①これが、シナイ契約の本質である。
- ②神はイスラエルの民をエジプトから導き出された。
- ③次に、神の民としていかに生きるべきかを教えるために律法を与えた。

(3) 福音のメッセージもこれと同じである。

- ①イエス・キリストの十字架の死と復活のメッセージ
- ②救いは、恵みと信仰によって与えられる。
- ③次にキリストの律法への従順が求められる。
- ④それを可能にするのは、聖霊の力である。

申命記 17回
「第1戒と第2戒」
申5:6~10

1. はじめに

(1) 申命記の構造(宗主権契約に基づく4つの説教)

①第1の説教:歴史の回顧(1:5~4:43)

②第2の説教:契約に基づく義務(4:44~26:19)

*総論:臣下の義務(4:44~5:33)

*全的従順の呼びかけ(6~11章)

*律法の解説と日常生活への適用(12:1~26:15)

*【主】に対する誓約(26:16~19)

(2) シナイ山での契約締結とモアブの地での契約更新の対比

①シナイ山での契約締結では、恐ろしい光景が展開された。

②モアブの地での契約更新では、恵みと希望に満ちた光景が展開された。

③申5:6以降で、律法の内容が解説される(613の命令)。

④最初に出て来るのは、十戒である。

(3) モーセの律法に関して混乱がある。

①土曜日の礼拝を主張する人たちがいる。

②律法そのものを悪と見る人たちがいる。

③旧約は終わったのだから、新約だけを読めばいいと言う人たちがいる。

④モーセの律法に関する誤解を解く必要がある。

2. メッセージのアウトライン

(1) 第1戒(5:6~7)

(2) 第2戒(5:8~10)

3. 結論:モーセの律法の7つの側面

第1戒と第2戒について学ぶ。

I. 第1戒(5:6~7)

1. 6節

Deu 5:6 「わたしは、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出したあなたの神、【主】である。

(1) 6節は、第1戒だけでなく、十戒全体を理解するための鍵である。

- ①イスラエルの民と契約を結ぶのは、知らない神ではない。
- ②アブラハム、イサク、ヤコブの神である。
- ③その御名は【主】である。
- ④イスラエルの民をエジプトから救った神である。

*申命記では、エジプトは頻繁に「**奴隸の家**」と呼ばれる。

(2) 6節は、先ず恵みがあり、次に律法があることを示している。

- ①【主】はイスラエルを救われた。
- ②律法は、愛によって【主】に応答する方法として、イスラエルに与えられた。

2. 7節

Deu 5:7 あなたには、わたし以外に、ほかの神があってはならない。

(1) 第1戒は、正しい神学を持ってという命令である。

- ①すべての神学が正しいわけではない。
- ②しかし、神学なしに正しい信仰を持つことはできない。

(2) 神は唯一であるということを認めることが信仰の第一歩である。

- ①申4:35

Deu 4:35 あなたにこのことが示されたのは、【主】だけが神であり、ほかに神はいないことを、あなたが知るためであった。

*イスラエルの民は、シナイ山でシャカイナグローリーを体験した。

- ②イザ43:10~11

Isa 43:10 あなたがたはわたしの証人、／——【主】のことば——／わたしが選んだわたしのしもべである。／これは、あなたがたが知って、わたしを信じ、／わたしがその者であることを悟るためだ。／わたしより前に造られた神はなく、／わたしより後にも、それはいない。

Isa 43:11 わたし、このわたしが【主】であり、／ほかに救い主はいない。

*自分のすべてと、生活の全領域を、【主】に捧げるべきである。

*イスラエルの民の使命は、神が唯一であることを諸国民に示すこと。

(3) 「**ほかの神**」とは、テクニカルタームである。

- ①これは、異教の神々である。
- ②実体はないが、偶像の形で存在している。
- ③また、それを礼拝する人々の心の中に存在している。

II. 第2戒(5:8~10)

1. 8~9節 a

Deu 5:8 あなたは自分のために偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、いかなる形をも造ってはならない。

Deu 5:9a それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、【主】であるわたしは、ねたみの神。

- (1) 第2戒は、真の礼拝とは何かを教えている。
 - ①神は、被造世界を超越している。
 - ②それゆえ、神を目に見えるもの(被造物)で表現することは不可能である。
 - ③偶像を造ると、被造物を拜むという結果を招くことになる。
- (2) 第2戒は、芸術活動を禁止しているわけではない。
 - ①礼拝のための像を造ることは禁止しているが、それ以外の像は除外される。
 - ②モーセは幕屋の中で用いるために、ケルビムの織物や像を造った。
- (3) 「【主】であるわたしは、ねたみの神」

①イザ 54:5~6

Isa 54:5 なぜなら、あなたの夫はあなたを造った者、／その名は万軍の【主】。／あなたの贖い主はイスラエルの聖なる者、／全地の神と呼ばれているからだ。

Isa 54:6 【主】はあなたを、／夫に捨てられた、心に悲しみのある女と呼んだが、／若いころの妻をどうして見捨てられるだろうか。／——あなたの神は仰せられる——

*イスラエルの民は、【主】の妻である。

*偶像礼拝は、靈的姦淫である。

*【主】は、夫が妻に関して嫉妬するように、背信の民に対して嫉妬する。

- ②このねたみは、健全なものである。
- ③【主】は、ご自身の栄光を偶像に渡すことはない

2. 9b~10節

Deu 5:9b わたしを憎む者には父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、

Deu 5:10 わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。

- (1) 「父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし」
 - ①父の罪のゆえに子が罰を受けることはないというのが、聖書の教えである。
 - ②「わたしを憎む者」とは、「子」である。
 - ③子は、父の悪影響を受け、【主】に敵対するようになる。
 - ④この聖句は、先祖の罪の悪影響が子孫に及ぶということを教えている。

⑤【主】は、それを三代か四代でとどめてくださる。

(2) 「わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施す」

- ①先祖の良い影響が子孫に及ぶということ。
- ②その場合は、それが長く続くということ。

結論：モーセの律法の7つの側面

1. 救いの方法ではない。

- (1) イスラエルの民は、すでにエジプトから解放されている。
- (2) 神に選ばれたことを土台として、モーセの律法が与えられた。
- (3) もしこれが救いの方法であるなら、それは「業による救い」となる。
- (4) 恵みと信仰による救いが、聖書を貫く唯一の救いの方法である。
- (5) 創15:6

Gen 15:6 アブラムは【主】を信じた。それで、それが彼の義と認められた。

2. 神が聖であることを示す。

- (1) 民は、神の力と守りを経験したが、神の性質については無知であった。
- (2) 613の律法を読み進むと、神がいかに聖なるお方であるかが分かる。
- (3) レビ11:45が、モーセの律法を中心である。

Lev 11:45 わたしは、あなたがたの神となるために、あなたがたをエジプトの地から導き出した【主】であるからだ。あなたがたは聖なる者とならなければならない。わたしが聖だからである。」

3. 旧約時代の聖徒たちの行動基準である。

- (1) 神によって召された国民として行動基準が必要である。
- (2) 旧約時代の聖徒たちにとっての信仰表現とは、モーセの律法に従うこと。
- (3) 真の信仰は、律法を行うことによって証明される。
- (4) アブラハムがイサクを捧げたのも、同じ意味である。

4. 人の罪を示す。

- (1) ロマ3:20

Rom 3:20 なぜなら、人はだれも、律法を行うことによって神の前に義と認められないからです。律法を通して生じるのは罪の意識です。

- (2) 律法が悪いわけではない。
 - ①問題は、人の内側にある罪の性質である。

5. 人にもっと罪を犯させる力となる。

(1) ロマ4:15

Rom 4:15 実際、律法は御怒りを招くものです。律法のないところには違反ありません。

①罪の性質はあっても、律法がなければ律法違反ということが成り立たない。

(2) ロマ7:7

Rom 7:7 それでは、どのように言うべきでしょうか。律法は罪なのでしょう。決してそんなことはありません。むしろ、律法によらなければ、私は罪を知ることはなかったでしょう。実際、律法が「隣人のものを欲してはならない」と言わなければ、私は欲望を知らなかったでしょう。

①律法は悪でも罪でもない。

②律法によって、人の罪の性質が活動を始めるのである。

③律法が、罪の性質が働く土台となった。

④律法が与えられたので、罪の性質は暴君のようになって暴れ出した。

6. 人を信仰に導く。

(1) ガラ3:23~24

Gal 3:23 信仰が現れる前、私たちは律法の下で監視され、来たるべき信仰が啓示されるまで閉じ込められていました。

Gal 3:24 こうして、律法は私たちをキリストに導く養育係となりました。それは、私たちが信仰によって義と認められるためです。

①律法は、業による救いが不可能であることを示す。

②その結果、信仰による救いを求めるようになる。

③最終的には、キリストに対する信仰へと導かれる。

④旧約時代の聖徒たちは、血の犠牲の必要性を認識するようになった。

7. すでに終わった。

(1) モーセの律法は統一体である。

①全部終わったか、全部残っているかのどちらかである。

②祭儀法と民法とは終わったが、道徳法は今も有効であるとの主張がある。

③しかし、モーセの律法の分割は不可能。

④一部が今も有効であるという主張には、聖書的根拠がない。

(2) ロマ10:4

Rom 10:4 律法が目指すものはキリストです。それで、義は信じる者すべてに与えられるのです。信じる人はみな義と認められるのです」

①キリストは律法の要求を満たされた。

②つまり、律法が目的としていたことが成就したので、その効力が消えた。

(3) ガラ3:19

Gal 3:19 それでは、律法とは何でしょうか。それは、約束を受けたこの子孫が来られるときまで、違反を示すためにつけ加えられたもので、御使いたちを通して仲介者の手で定められたものです。

①一時的に与えられたもの

②子孫(メシア)の登場とともに終わる。

(4) ヘブ7:12

Heb 7:12 祭司職が変われば、必ず律法も変わらなければなりません。

①モーセの律法を運用する土台は、レビ族から出た祭司である。

②ヘブル人への手紙が論じている祭司とは、メシアであるイエス。

③イエスは、レビ族ではなく、ユダ族から出ている。

④祭司職が変わった(メルキゼデクの位の祭司)。

⑤それゆえ、律法も変わらねばならない。

⑥新しい律法とは、「キリストの律法」である。

質問への回答

「最近、オンラインの礼拝にある疑問が浮かんできました。それは、オンラインで祈る祈りに聖霊は臨んでいるのか、オンラインの礼拝に聖霊の祝福はあるのかという点です。…画面越しの礼拝や、祈禱会の中に、どうしても霊的な喜びを感じられません」

(1) オンライン礼拝そのものは、悪ではありません。

(2) オンライン礼拝には、欠点と長所があります。

①信者の交わりができないというのが、最大の欠点です。

(3) 長所はいろいろあります。

①政府の要請に敬意を表することができます。

②パンデミックから身を守るための知恵です。

③普段教会に来ない人たちに語りかけることができます。

④過去のメッセージをアーカイブに保存することができます。

(4) オンライン礼拝にも神の祝福があります。

①神は、時間と空間を超越した方です。

②過去のメッセージによって救われる方が出ます。

③ヨハ4:24

Joh 4:24 神は霊ですから、神を礼拝する人は、御霊と真理によって礼拝しなければなりません。」

申命記 18回
「第3戒と第4戒」
申5:11~15

1. はじめに

(1) 申命記の構造(宗主权契約に基づく4つの説教)

①第1の説教:歴史の回顧(1:5~4:43)

②第2の説教:契約に基づく義務(4:44~26:19)

*総論:臣下の義務(4:44~5:33)

*全的従順の呼びかけ(6~11章)

*律法の解説と日常生活への適用(12:1~26:15)

*【主】に対する誓約(26:16~19)

(2) シナイ山での契約締結とモアブの地での契約更新の対比

①シナイ山での契約締結では、恐ろしい光景が展開された。

②モアブの地での契約更新では、恵みと希望に満ちた光景が展開された。

③申5:6以降で、律法の内容が解説される(613の命令)。

④最初に出て来るのは、十戒である。

2. メッセージのアウトライン

(1) 第3戒(5:11)

(2) 第4戒(5:12~15)

3. 結論

(1) クリスチャンとモーセの律法

(2) クリスチャンとキリストの律法

第3戒と第4戒について学ぶ。

I. 第3戒(5:11)

1. 11節

Deu 5:11 あなたは、あなたの神、【主】の名をみだりに口にしてはならない。【主】は、主の名をみだりに口にすることを罰せずにはおかない。

(1) 第3戒は、神の尊厳や性質を引き下げてはいけないということを教えている。

①ヘブル的には、名は実態を表わす。

②「【主】の名をみだりに口にすること」とは、神を価値なき者として扱うこと。

- ③実行する気がないのに、神の名によって誓うのも第3戒違反に当たる。
- (2) ユダヤ人は、偶然に御名を口にすることを恐れ、御名を発音しなくなった。
- ①【主】をヘブル語で読むと、「ヤハウエ」という発音が最も近いと思われる。
 - ②ユダヤ人たちは、「ヤハウエ」を「アドナイ(わが主)」と読み替えている。
 - ③(新改訳2017)で「【主】」と表記されているのは、「ヤハウエ」である。
- (3) 英語圏の人たちは、神の御名を「呪いや罵倒の言葉」として使うことがある。
- ①あたかも、意図的に第3戒を破っているかのようである。
 - ②彼らには、神への恐れがない。
- (4) カルト的指導者が語る感わしの言葉にも注意しよう。
- ①「神が私にこう語られた」
 - ②「今私は、聖霊によって語っている」
 - ③霊的リーダーがこのような言葉を頻繁に語り始めると、注意が必要である。
 - ④そのような言葉は、聞く人たちを束縛する力となる。
 - ⑤霊的リーダーには、謙遜さが求められる。
 - ⑥【主】の御名をあがめる生き方とは、神を神として認め、日々みことばに親しみ、謙遜になって、聖霊に導かれて歩むことである。

II. 第4戒(5:12~15)

1. 12~14節

Deu 5:12 安息日を守って、これを聖なるものとせよ。あなたの神、【主】が命じたとおりに。

Deu 5:13 六日間働いて、あなたのすべての仕事をせよ。

Deu 5:14 七日目は、あなたの神、【主】の安息である。あなたはいかなる仕事もしてはならない。あなたも、あなたの息子や娘も、それにあなたの男奴隷や女奴隷、牛、ろば、いかなる家畜も、また、あなたの町囲みの中にいる寄留者も。そうすれば、あなたの男奴隷や女奴隷が、あなたと同じように休むことができる。

- (1) イスラエルの民は、神との契約関係に入った。
 - ①それゆえ、彼らは神がなさるようになるのである。
 - ②神は、6日間で被造世界を造り、7日目に休まれた。
 - ③イスラエルの民も7日目に休むのである。

- (2) 安息日は、シナイ契約のしるしである。

①出 31 : 13

Exo 31:13 「あなたはイスラエルの子らに告げよ。／あなたがたは、必ずわたしの安息を守らなければならない。これは、代々にわたり、わたしとあなたがたとの間のしるしである。わたしが【主】であり、あなたがたを聖別する者であることを、あなたがたが知るためである。

(3) 安息日は、神からの恵みの贈り物である。

①安息日の規定は、イスラエルの共同体すべてに適用される。

* 男奴隷や女奴隷、牛、ろば、いかなる家畜も

* あなたの町囲みの中にいる寄留者も

②安息日の恵みが、イスラエルの共同体に普遍的に適用される。

3. 15 節

Deu 5:15 あなたは自分がエジプトの地で奴隷であったこと、そして、あなたの神、【主】が力強い御手と伸ばされた御腕をもって、あなたをそこから導き出したことを覚えていなければならない。それゆえ、あなたの神、【主】は安息日を守るよう、あなたに命じたのである。

(1) また安息日は、奴隷から自由の民となったことのしるしでもある。

①奴隷には安息の日はない。

②週に一度労働から離れるのは、自由の民だけが持っている特権である。

②その日には、イスラエルの民は、いくつかのことを思い出す。

* 【主】が彼らをエジプトから解放してくださったこと

* 【主】がすべての必要を満たしてくださる方であること

(2) 安息日は、キリストを信じた人が経験する霊的状态(平安)の型である。

①そのことを論じたのが、ヘブル人への手紙の4章である。

②救いに至る信仰告白をしたなら、その人の心に平安が与えられる。

③この平安は、新天新地において完璧なものとなる。

(3) 新約時代の聖徒たちは、土曜日ではなく、どの日に礼拝をしてもよい。

①ロマ 14 : 5

Rom 14:5 ある日を別の日よりも大事だと考える人もいれば、どの日も大事だと考える人もいます。それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい。

②ヘブ 10 : 25

Heb 10:25 ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合ひましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。

- ③この教えを実践するなら、定期的に集まり、神を礼拝することになる。
- ④定期的に集まるとは、最低週に1回は集まるということになる。
- ⑤土曜安息の時代は終わり、どの日に礼拝してもよいという時代になった。

結論

1. クリスマンとモーセの律法

(1) エペ 2:12

Eph 2:12 そのころは、キリストから遠く離れ、イスラエルの民から除外され、約束の契約については他国人で、この世にあって望みもなく、神もない者たちでした。

- ①異邦人は、望みもなく、神もない人たちであった。
- ②「約束の契約」(複数形)については他国人であった。
- ③神がイスラエルと結んだ無条件契約は、4つある。
 - *アブラハム契約
 - *土地の契約
 - *ダビデ契約
 - *新しい契約
- ④異邦人も信仰により、無条件契約の祝福に与ることができるようになった。
 - *その理由が、エペ 2:14~16 に記されている。

(2) エペ 2:14~16

Eph 2:14 実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのものを一つにし、ご自分の肉において、隔ての壁である敵意を打ち壊し、

Eph 2:15 様々な規定から成る戒めの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、この二つをご自分において新しい一人の人に造り上げて平和を実現し、

Eph 2:16 二つのものを一つのからだとして、十字架によって神と和解させ、敵意を十字架によって滅ぼされました。

- ①敵意とは、律法のこと。
- ②それは、二つのもの(ユダヤ人と異邦人)を分けていた「隔ての壁」である。
- ③十字架によって、敵意(律法)は葬り去られた。

2. クリスマンとキリストの律法

(1) 2コリ 3:6~8

2Co 3:6 神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格を下さいました。文字に仕える者ではなく、御霊に仕える者となる資格です。文字は殺し、御霊は生かすからです。

2Co 3:7 石の上に刻まれた文字による、死に仕える務めさえ栄光を帯びたものであり、イスラエルの子らはモーセの顔にあった消え去る栄光のために、モーセの顔を見つめることができないほどでした。そうであれば、

2Co 3:8 御霊に仕える務めは、もっと栄光を帯びたものとならないでしょうか。

- ①文字は殺す。
- ②「石の上に刻まれた文字」(7節)とは、十戒のことである。
- ③十戒だけは有効とする考え方は、この聖句によって否定されている。
- ④律法には、義認の力も、聖化の力もない。
- ⑤御霊がそれをするのである。
- ⑥ラビ的議論
 - *文字に仕えることが栄光に富んだものであるなら、御霊に仕えることはなおさらそうである。

(2) ガラ 6:2

Gal 6:2 互いの重荷を負い合いなさい。そうすれば、キリストの律法を成就することになります。

- ①「キリストの律法」は、新約時代の信徒に与えられている。
- ②パウロは、自分は「キリストの律法を守る者です」と書いている。

*1コリ 9:21

1Co 9:21 律法を持たない人たちには——私自身は神の律法を持たない者ではなく、キリストの律法を守る者ですが——律法を持たない者のようにになりました。律法を持たない人たちを獲得するためです。

- ③キリストの律法の条項の中には、十戒の中の9戒まで含まれている。
- ④含まれていないのは、第4戒(安息日の規定)だけである。
- ⑤聖霊が降臨して以降の聖書の内容が、キリストの律法である。
- ⑥キリストの律法の実行を可能にするのは、聖霊の働きである。

(3) 新約時代の信者は、モーセの律法から多くの適用を学ぶことができる。

- ①モーセの律法の7つの側面(申命記17回目のメッセージ)

(4) 6番目が「人を信仰に導く」である。

- ①ガラ 3:23~24

Gal 3:23 信仰が現れる前、私たちは律法の下で監視され、来たるべき信仰が啓示されるまで閉じ込められていました。

Gal 3:24 こうして、律法は私たちをキリストに導く養育係となりました。それは、私たちが信仰によって義と認められるためです。

- *律法は、業による救いが不可能であることを示す。
 - *その結果、信仰による救いを求めるようになる。
 - *最終的には、キリストに対する信仰へと導かれる。
 - *旧約時代の聖徒たちは、血の犠牲の必要性を認識するようになった。
- ②キリストの福音を信じた人には、大いなる希望がある。

申命記 19回

「第5戒」

申5:16

1. はじめに

(1) 申命記の構造（宗主権契約に基づく4つの説教）

①第1の説教：歴史の回顧（1:5～4:43）

②第2の説教：契約に基づく義務（4:44～26:19）

*総論：臣下の義務（4:44～5:33）

*全的従順の呼びかけ（6～11章）

*律法の解説と日常生活への適用（12:1～26:15）

*【主】に対する誓約（26:16～19）

(2) シナイ山での契約締結とモアブの地での契約更新の対比

①シナイ山での契約締結では、恐ろしい光景が展開された。

②モアブの地での契約更新では、恵みと希望に満ちた光景が展開された。

③申5:6以降で、律法の内容が解説される（613の命令）。

④十戒が最初に出て来る。

2. メッセージのアウトライン

(1) 第5戒（5:16）

(2) 旧約聖書と第5戒

(3) 新約聖書と第5戒

3. 結論：第5戒に関する現代的課題

第5戒について学ぶ。

I. 第5戒（5:16）

1. 16節

Deu 5:16 あなたの父と母を敬え。あなたの神、【主】が命じたとおりに。それは、あなたの日々が長く続くようにするため、また、あなたの神、【主】があなたに与えようとしているその土地で幸せになるためである。

(1) モーセの律法は、両親を敬うことの重要性を強調している。

①神との関係（1～4戒）

②人との関係（5～10戒）

③人との関係の最初に、両親を敬えという戒めが出て来る。

- ④敬うというのは、両親の価値を高く評価することである。
- ⑤その外的表現が、両親への従順である。

(2) その背後にある考え方は、次のようなものである。

- ①両親を敬うことは、神の立てた秩序と権威に従うことである。
- ②両親に反抗する者は、神に敵対する人間になる可能性が大である。
- ③両親を敬うことは、謙遜を学ぶことでもある。
- ④自分だけで生きている人はいない。傲慢は破滅をもたらす。

(3) この戒めには約束が伴っている。

「それは、あなたの日々が長く続くようにするため、また、あなたの神、【主】があなたに与えようとしているその土地で幸せになるためである」

- ①これは、個人的な長寿の約束というよりも、イスラエルの民が約束の地で平安の内に長く住むようになるという約束である。「あなた」は複数形である。
- ②両親を敬うことは、民族として生き延びるための鍵である。
 - *家族は、社会の最小単位である。
 - *宗教的指導者ではなく、両親（特に父）が子どもの教育に責任を持つ。
 - *父たちには、子どもたちに保守的な価値観を教える義務がある。

2. イエスもまた、第5戒の重要性を指摘された（マタ 15：4）。

Mat 15:4 神は『父と母を敬え』、また『父や母をののしる者は、必ず殺されなければならない』と言われました。

(1) 「父や母をののしる者は、必ず殺されなければならない」は、他の箇所からの引用である。

3. イエスは、第5戒を実行された（ルカ 2：51～52）。

Luk 2:51 それからイエスは一緒に下って行き、ナザレに帰って両親に仕えられた。母はこれらのことをみな、心に留めておいた。

Luk 2:52 イエスは神と人とにいつくしまれ、知恵が増し加わり、背たけも伸びていった。

II. 旧約聖書と第5戒

1. 出 21：17

Exo 21:17 自分の父や母をののしる者は、必ず殺されなければならない。

(1) 両親をののしる者は、殺人者と同じ扱いを受けた。

2. レビ 20 : 9

Lev 20:9 だれでも自分の父や母をののしる者は、必ず殺されなければならない。その人は自分の父あるいは母をののしただけだから、その血の責任は彼にある。

(1) 現代のキリスト教は、この罪を軽く扱っている。

3. 申 27 : 16

Deu 27:16 「自分の父や母を軽んじる者はのろわれる。」民はみな、アーメンと言いなさい。

(1) 呪いの宣言と民の同意

4. 箴 20 : 20

Pro 20:20 自分の父や母をののしる者、／そのともしびは、闇が近づくと消える。

(1) 「ともしびが消える」とは、死の比喩的表現である。

5. 箴 30 : 17

Pro 30:17 自分の父を嘲り、／母への従順を蔑む目は、／谷の鳥にえぐり取られ、／鷲の子に食われる。

(1) 両親を嘲る者は、死んでも埋葬されず、その死体は鳥の餌となる。

Ⅲ. 新約聖書と第5戒

1. ロマ 1 : 29～30

Rom 1:29 彼らは、あらゆる不義、悪、食欲、悪意に満ち、ねたみ、殺意、争い、欺き、悪巧みにまみれています。また彼らは陰口を言い、

Rom 1:30 人を中傷し、神を憎み、人を侮り、高ぶり、大言壮語し、悪事を企み、親に逆らい、

(1) 神を認めない者たちの墮落した姿が描かれている。

2. コロ 3 : 20

Col 3:20 子どもたちよ、すべてのことについて両親に従いなさい。それは主に喜ばれることなのです。

(1) 両親への従順が救いをもたらすというのではない。これは創造の秩序である。

3. 2テモ 3 : 1～2

2Ti 3:1 終わりの日には困難な時代が来ることを、承知していなさい。

2Ti 3:2 そのときに人々は、自分だけを愛し、金銭を愛し、大言壮語し、高ぶり、神を冒瀆し、両親に従わず、恩知らずで、汚れた者になります。

(1) 終末論時代に現れる霊的墮落の描写である。

4. エペ6:1~3

Eph 6:1 子どもたちよ。主にあって自分の両親に従いなさい。これは正しいことなのです。

Eph 6:2 「あなたの父と母を敬え。」これは約束を伴う第一の戒めです。

Eph 6:3 「そうすれば、あなたは幸せになり、その土地であなたの日々は長く続く」という約束です。

(1) 「第一の戒め」

- ①第1戒という意味ではなく、約束が伴った第一の戒めという意味である。
- ②今の時代（恵みの時代）は、モーセの律法の役割は終了している。
- ③第5戒と同じ命令が、「キリストの律法」の中にも含まれている。
- ④今の時代においても、両親を敬えという命令が与えられている。

(2) エペソ6章の文脈から学ぶこと

- ①結婚生活は、キリストと教会の関係の投影（表れ）である。
- ②親子関係もまた、主への献身の投影でなければならない。
- ③子どもは、神への献身の表れとして両親を敬う。
- ④親もまた、神への献身の表れとして子どもたちを訓練する。
- ⑤親子ともに、神からの命令と使命が与えられている。

結論：第5戒に関する現代的課題

1. 虐待を経験した子どもでも、両親を敬うべきか。

(1) 虐待にはさまざまな形態がある。

- ①暴力による肉体的虐待
- ②言葉による虐待
- ③無視という虐待

(2) 自分が傷ついていることを神に申し上げよう。

- ①神は、私たちのすべてをご存じである。
- ②両親を敬うことができないなら、そのことも、正直に告白しよう。

(3) 両親との間に具体的な境界線を引こう。

- ①独り立ちできる年齢になったなら、自立した生活を志そう。
- ②適度な距離を置いたところから、両親を敬うことは可能である。
- ③境界線とは、これ以上は親に介入させないという線のことである。

- (4) 両親がしてくれた良いことを思い出す努力をしよう。
 - ①積極的な記憶を呼び戻し、そのことのゆえに両親に感謝しよう。
- (5) 両親の救いのために祈り始めよう。
 - ①両親の救いのために祈るのは、第5戒の実践である。
- (6) 「親換え」を実行しよう。
 - ①「親換え」とは、地上の父を天の父（父なる神）に置き換えることである。
 - ②「親換え」は、イエス・キリストを信じる信仰によって可能となる。
 - ③「親換え」には時間がかかるが、確実に癒しと解放を体験するようになる。

2. 両親は暴君か。

(1) Noah Berlatsky（米国人作家）のツイート

- ①彼は、幸せな子ども時代を過ごした。現在10代の娘がひとりいる。
「両親は暴君である。親は、金持ちや白人と同じように、抑圧的階級である。親子関係の濫用を最小限に食い止める方法はいくつかあるが、その病は常に存在する」
- ②この議論は、すべての親を「暴君」として一括りにしている点が問題。
- ③このままでは、親であること自体が罪とされる時代が来る。
- ④社会に分断を作り出し、不満を醸成することで既存の秩序を破壊するのが共産主義者の常套手段である。

3. 性別を含む言語は不適切か。

- (1) 米下院議長ペロシは「性別を含む言語」を排除する行動規則案を出した。
 - ①「父、母、息子、娘、兄、姉、祖父、祖母」などの使用が禁止される。
 - ②親権の制限やジェンダーレス社会の推進は、家族制度の否定につながる。
- (2) 米下院議会の冒頭の祈りで、民主党議員は「amen and a-women」と言った。
 - ①Emanuel Cleaver 議員（ミズーリ州）は、牧師でもある。
 - ②「amen」はジェンダーとは無関係である。
 - ③ヘブライ語で「その通り」「本当に」「そうでありますように」などの意味。
- (3) 子どもの養育に関しては、政府が責任を持つという考え方が広がりつつある。
 - ①イスラエルのキブツで、子どもたちの世話を専門のスタッフに委ねた。
 - ②母親は授乳の時間にだけやって来て、それ以外は職場で働いた。
 - ③子どもも大人も、多くの者が愛着障害に陥った。
- (4) ジェンダーレス社会のゴールは、家庭の破壊である。
 - ①男女ともに参画できる職業に関しては、ジェンダーレスの用語でよい。
 - *チェアマン、チェアウーマン＝チェアパーソン
 - *ポリースマン、ポリースウーマン＝ポリースオフィサー
 - ②しかし、肉体上の性差は、創造の秩序として存在する。

- ③それをあたかも存在しないかのように振る舞うのは、非現実的である。
- ④神は、私たちが「違い」をエンジョイするように自然界を創造された。
- ⑤家庭の破壊は、生存の基盤の破壊であり、聖書的価値観への挑戦である。

申命記 20回
「第6戒～第10戒」
申5：17～21

1. はじめに

(1) 申命記の構造（宗主権契約に基づく4つの説教）

①第1の説教：歴史の回顧（1：5～4：43）

②第2の説教：契約に基づく義務（4：44～26：19）

*総論：臣下の義務（4：44～5：33）

*全的従順の呼びかけ（6～11章）

*律法の解説と日常生活への適用（12：1～26：15）

*【主】に対する誓約（26：16～19）

(2) シナイ山での契約締結とモアブの地での契約更新の対比

①シナイ山での契約締結では、恐ろしい光景が展開された。

②モアブの地での契約更新では、恵みと希望に満ちた光景が展開された。

③申5：6以降で、律法の内容が解説される（613の命令）。

④十戒が最初に出て来る。

2. メッセージのアウトライン

(1) 第6戒（5：17）

(2) 第7戒（5：18）

(3) 第8戒（5：19）

(4) 第9戒（5：20）

(5) 第10戒（5：21）

3. 結論：十戒のまとめ

第6戒～第10戒について学ぶ。

I. 第6戒（5：17）

1. 17節

Deu 5:17 殺してはならない。

(1) 第6戒は、「いのちの尊厳」を教えたものである。

①いのちは、神によって創造されたものである。

②人の内面は、「神のかたち」に創造されている。

③創1：27

Gen 1:27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。

(2) 「殺す」とは、個人的な理由で、故意に人のいのちを奪うことである。

- ①自殺は自分のいのちを奪うことなので、第6戒の違反となる。
- ②第6戒は、死刑を禁止したものではない。
- ③神が死刑を命じる場合がある。

(3) レビ 20 : 10

Lev 20:10 人が他人の妻と姦淫したなら、すなわち自分の隣人の妻と姦淫したなら、その姦淫した男も女も必ず殺されなければならない。

- ①結婚の尊厳を守るため
- ②家族制度を維持するため

(4) 民 35 : 21

Num 35:21 または、敵意をもって人を手で打って死なせたなら、その打った者は必ず殺されなければならない。その人は殺人者である。その血の復讐をする者がその殺人者に出くわしたときには、彼を殺してもよい。

- ①故意に殺人を犯した者は、必ず殺されなければならない。
- ②過失の場合は、犯人は逃れの町に逃げ込むことができる。

(5) 申 13 : 15

Deu 13:15 あなたはその町の住民を必ず剣の刃で討たなければならない。その町とそこにいるすべての者、その家畜も剣の刃で聖絶しなさい。

- ①偶像礼拝を扇動した者への裁き
- ②【主】が命じる戦争への参加

2. 私たちへの適用

(1) イエスは殺人を、心の状態にまで拡大して論じておられる。

- ①心の中で起こっていることが、行為として出て来る。

(2) マタ 5 : 21～22

Mat 5:21 昔の人々に対して、『殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。

Mat 5:22 しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に対して怒る者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に『ばか者』と言う者は最高法院でさばかれます。『愚か者』と言う者は火の燃えるゲヘナに投げ込まれます。

- ①イエスは、モーセの律法は心のあり方まで問題にしていると教えられた。
- ②パリサイ人の口伝律法とイエスの律法解釈の間には大きな違いがあった。
- ③それが両者の論争の原因となった。

(3) 1ヨハ3:15

1Jn 3:15 兄弟を憎む者はみな、人殺しです。あなたがたが知っているように、だれでも人を殺す者に、永遠のいのちがとどまることはありません。

- ①神を愛することは、隣人を愛することである。
- ②キリスト教の真髄は、ここにある。

II. 第7戒 (5:18)

1. 18節

Deu 5:18 姦淫してはならない。

- (1) 第7戒は、結婚関係の尊厳を教えたものである。
 - ①結婚は、神と信者の関係の投影である。
 - ②聖書は、結婚関係という枠内における男女の肉体的交わりを祝福している。
 - ③旧約聖書の雅歌は、夫婦関係の喜びを歌ったものである。
 - ④結婚関係の外で起きる性的罪は、すべて第7戒違反である。
 - ⑤結婚している人が犯す罪は、相手に対する裏切りとなる。
 - ⑥婚前交渉も罪である（創2:24、出22:16、申22:13～29参照）。
 - ⑦第7戒は、家庭という制度を守るためのものでもある。
 - ⑧結婚相手に不忠実なイスラエル人は、神との契約にも不忠実である。
 - ⑨そういう者は、偶像礼拝に陥りやすい。

(2) ヘブ13:4

Heb 13:4 結婚がすべての人の間で尊ばれ、寝床が汚されることのないようにしなさい。神は、淫行を行う者と姦淫を行う者をさばかれるからです。

III. 第8戒 (5:19)

1. 19節

Deu 5:19 盗んではならない。

(1) 第8戒は、私有財産の尊厳を教えたものである。

- ①神は、私たちのいのちだけでなく、所有物まで評価し認めておられる。
- ②他人のものを盗むのは、自分には自分の思いどおりに生きる権利があると宣言しているのと同じことである。

(2) エペ4:28

Eph 4:28 盗みをしている者は、もう盗んではいけません。むしろ、困っている人に分け与えるため、自分の手で正しい仕事をし、労苦して働きなさい。

IV. 第9戒 (5:20)

1. 20節

Deu 5:20 あなたの隣人について、偽りの証言をしてはならない。

(1) 第9戒は、真実の大切さを教えたものである。

- ①嘘には、個人的なものや公のものがある。
- ②その中には、法廷での偽証から、うわさ話まで含まれる。
- ③偽証は、隣人の評判を傷つけることである。
- ④もし偽証を拒否するならば、その人は隣人の価値を守ったことになる。
- ⑤神は、そういう人を喜ばれる。

(2) エペ4:25

Eph 4:25 ですから、あなたがたは偽りを捨て、それぞれ隣人に対して真実を語りなさい。私たちは互いに、からだの一部分なのです。

V. 第10戒 (5:21)

1. 21節

Deu 5:21 あなたの隣人の妻を欲してはならない。あなたの隣人の家、畑、男奴隷、女奴隷、牛、ろば、すべてあなたの隣人のものを欲しがってはならない。」

(1) 第10戒は、行為そのものではなく、心の問題を扱っている。

- ①すべての人は、貪欲という罪を持っている。
- ②貪欲は、他人の物を手に入れたら幸せになれるという誤解から発生する。
- ③貪欲は、神は必要を満たしてくださるという信仰に反する心の動きである。
- ④第10戒は非常に重要な命令である。
- ⑤これを守ることができたならば、十戒すべてを守ることができるようになる。
- ⑥すべての罪は、貪欲から生まれるものである。

(2) コロ 3:5

Col 3:5 ですから、地にあるからだの部分、すなわち、淫らな行い、汚れ、情欲、悪い欲、そして食欲を殺してしまいなさい。食欲は偶像礼拝です。

- ①食欲は、偶像礼拝である。
- ②偶像礼拝とは、神以外のものを第一にして生きていることである。

(3) ここで、十戒の鎖の輪が完成する。

- ①第1戒と第2戒は、偶像礼拝を禁止したものである。
- ②第10戒は、第1戒と第2戒につながっていく。

結論：十戒のまとめ

- 1. 第1戒～第4戒は、神と人との関係を規定する戒めである。
- 2. 第5戒～第10戒は、人と人との関係を規定する戒めである。
- 3. 十戒は、古代世界できわめて稀な道徳法である。
- 4. 異教の神々は気まぐれで、不道徳で、信頼できない。
- 5. イスラエルの民の場合は、神への信仰の表現が道徳的行為となって現れる。
- 6. 旧約時代、神を信じるということは、モーセの律法に従って生きることを意味した。
- 7. 十戒の中で第4戒（安息日）以外はすべて、「キリストの律法」に再度出て来る。
- 8. ロマ 13:8～10

Rom 13:8 だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことは別です。他の人を愛する者は、律法の要求を満たしているのです。

Rom 13:9 「姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。隣人のものを欲してはならない」という戒め、またほかのどんな戒めであっても、それらは、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」ということばに要約されるからです。

Rom 13:10 愛は隣人に対して悪を行いません。それゆえ、愛は律法の要求を満たすものです。

- (1) キリストの律法の本質が、ロマ 13:8～10 に記されている。
- (2) 「愛は律法の要求を満たすものです」
- (3) ここに、律法主義から解放される秘訣がある。
- (4) 愛の実践は、聖霊の助けなしには不可能である。